フィルム、容器・シート、関連資材・原料

コバヤシ

“白い恋人”で採用

でんぷん臭も解決し、さらに展開

プラスチック総合企業のコバヤシ（東京都台東区、☎03・3865・5500）が提案している植物のでんぷんを加工した新素材バイオマスでんぷん「レジームST」が徐々に採用アイテムを増やし、広がりを見せている。

循環型社会、石油資源削減の取り組みが各企業で行われている中、近年、特に注目が集まっている植物由来樹脂。トウモロコシ由来のPLAや、サトウキビからエタノールを取り出したバイオPEなど、容器包装の分野で徐々に広がりを見せている。

同素材もこれらと同様に植物を主原料とする新素材で、熱可塑性でんぷんを主原料とする。

熱可塑性でんぷんはでんぷんを変性してプラスチック同様の成形性や機能性を持たせたもので、シート、ペレット、フィルムなどと加工性も高い。

プラスチック同様の成形性や機能性を備えた、グリーンプラマーク（JBPA）、バイオプラマーク（JORA）も取得。

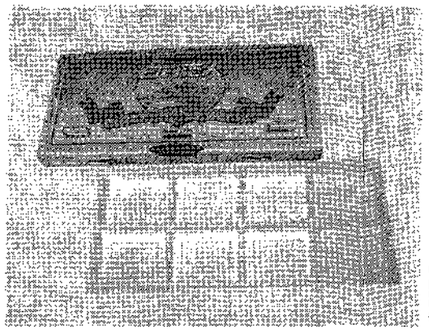
電子レンジ使用に耐える耐熱性のほか、以前は成形した容器にわずかにでんぷん臭が残っていたが、改良によりこの問題もクリアした。

そのため食品容器分野での採用決定も徐々に伸長している。

最近では、その環境対応適性が評価され、石屋製菓（札幌市）が製造し、北海道銘菓として有名な「白い恋人」の中トレーとして採用された。

さらに同社では、山形大学工学部（西岡昭博准教授）、宮城県産業技術総合センター（鈴木康夫所長）と連携し共同開発を行い同素材のさらなる展開を目指している。

容リ法や高騰する石油価格などコスト面や、環境対応素材としてもメリットの大きい樹脂として今後の展開が期待される新素材だ。



中トレーで採用

ダイセルパックシステムズ

高機能パッケージ3種を提案

多機能素材、バイオプラなど

化粧品展で大きな反響

ダイセルパックシステムズ（東京都千代田区、☎03・5209・7904）は、多様な高機能パッケージを提案・供給している。特に、5月25日からパシフィコ横浜で開催された「第5回化粧品産業技術展」では、ダイセルグループ3社とともに、メイクアップに欠かせない高機能パウダー（ダイセル・エボニック製）などの原料からパッケージに至るまでをソリューションとして提案し、大きな反響を呼んだ。

パッケージのソリューションとして特に提案したのが、「セルピーチ」「エコファンタジー」「グランアクア」の3製品。

「セルピーチ」は、高級感と機能性を兼ね備えたオリジナル多機能素材で、化粧品包装用トレーなどとして使用される。マットな質感と手にしっとりする感触で、高級感を演出する。

同時に、輸送中などでも商品がトレーの中で回転せず、商品の「顔」であるラベルが常に前を向き美しい状態で顧客に製品を提供することができる、商品を固定できるため傷がつきにくいなど、商品価値の向上が図れる。

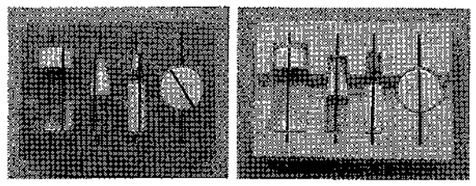
「エコファンタジー」は、植物由来の樹脂を原料としており、一般的なプラスチック材料よりもCO₂排出量を削減できるなど環境配慮性に優れている。130度Cまでの耐熱性と、ポリ乳酸の12倍という耐衝撃性も備える。

「グランアクア」は高透明PP製で、外装材であるクリアケースに使用することにより、一段の透明度を実現し商品の視認性と高級感を高める。耐衝撃性に優れるほか、印刷適正も高いとされる。

同展で3商品の提案を行ったところ、多くの商談申し込みを得たという。

同社では「これらは化粧品のみならず、多様な業界で使用頂ける商品なので展開を強めたい。今後も包装を通じてお客様の価値向上に役立つ提案を行っていく」としている。

輸送テスト後



従来のトレー　セルピーチ

「セルピーチ」トレーは輸送時に、従来素材のトレーと比べ回転しにくく、ずれにくい

ジャック

中身が混ざらない弁当容器

新たな販売スタイルの提案も可能

デザイン・企画・マーケティングなどの提案を行っているジャック（東京都渋谷区、☎03・6312・5094）は、需要が高まる弁当市場に参入するため、新タイプの弁当容器「マザラン」の製造・販売パートナーを募集している。

同容器は中仕切りを工夫し、蓋材にはOPS素材の透明蓋ではなく、容易に剥離することができるフィルムをシールした。これにより名称通りに、傾けたり、逆さにしても弁当中身が混ざらない。

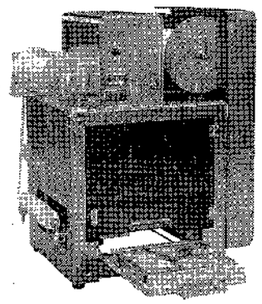
スープやカレーなど中身が混ざったり、運搬中の汁漏れが懸念されていたメニューにも使用することができる。

冷凍保存が可能な耐寒性や、電子レンジでの保温、加熱が可能な耐熱性も備える。専用のシーリング機を導入すれば、中小規模の弁当製造・販売業者の宅配販売といった展開も可能だ。透明蓋を使用しないので積み重ね適性も高い。

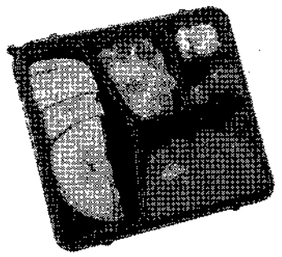
輸送や移動のコストを下げ、冷凍保存も容易であるため、不良在庫の減少にもつながる。

近年、高齢化による介護食、健康食などの需要により伸長している弁当市場で新たな販売スタイルを提案することのできる容器として期待が掛かる。

また、同社では製品開発において企画案をもとに、商品のイメージ化を行うサービスも提案しており、製品開発に掛かるコストの削減につながる。



専用のシーリングマシン



傾けても汁漏れしない

関西パック工業会

平成23年度研修会を開催

松下幸之助歴史館を見学

関西パック工業会（会長＝柏木大造氏）は6月17日、平成23年度研修会を開催した。「パナソニックミュージアム松下幸之助歴史館」を見学後、場所を移して懇親会も行われ会員・賛助会員の多くが参加した。

研修会では、まず大阪府門真市にある「パナソニックミュージアム松下幸之助歴史館」を訪問。創業50周年を記念して1968年に開館された館内には、創業者である松下幸之助氏の生い立ちから事業の歴史映像、商品写真、特別展収録ビデオなどの、さまざまなコンテンツが展示。幸之助氏が熱い情熱を傾けてきた事業発展の歴史と生涯が紹介された。

次いで大阪市天王寺区のホテルアウィーナ大阪において懇親会を開催。始めに柏木会長があいさつを行い「幸之助氏は経営哲学、人間像など、すべてにおいて想像

あいさつする柏木会長

第39回定時総会を開催

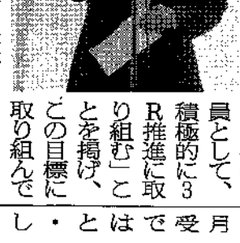
アルミ缶リサイクル協会

新理事長に藤原孝雄氏が就任

アルミ缶リサイクル協会（東京都港区、☎03・3582・9755）は、6月16日に千代田区の如水会館で第39回定時総会を開催。新理事長に藤原孝雄氏（昭和アルミニウム缶株式会社代表取締役社長）、副理事長に前理事長の太田拓夫氏（ユニバーサル製缶株式会社代表取締役社長）が就任した。

総会後は、平成22年（09年）度飲料用アルミ缶リサイクル率などの調査結果、平成23年（10年）度アルミ缶リサイクル協会事業活動計画および3R推進団体連絡会活動などについて、報道関係者向けに報告会が開催された。

改正容器リサイクル法のもとで、アルミ缶リサイクル協会を含むリサイクル8団体が結成した「3R推進団体連絡会」では、04年度実績をもとに10年度を目標年次とした「容器包装の3R推進に向けた自主行動計画」を公表している。09年度、アルミ缶リサイクル率は92・6%、リデュース率は04年度比較2・5%となっており、アルミ缶リサイクル協会が掲げた「アルミ缶自主行動計画」の目標値をクリアした結果となった。09年までの実績を鑑み、10年度はほぼこの目標を達成する見込みから、10年3月に次の5カ年に対する第二次自主計画案を作成し、消費者、自治体、事業者の連携に資する仕組みを継続推進することとなった。「アルミ缶における3R推進のための第二次自主行動」基本方針として、「安定的に90%以上のリサイクル率を維持する」「新たな技術開発に努め、04年実績比で15年までに3%の軽量化を行う」「3R推進団体連絡会の一員として、積極的に3R推進に取り組む」ことを掲げ、この目標に取り組んでいくこととし



あいさつする新理事長の藤原孝雄氏